

令和5年 川崎港港湾調査 速報集計結果（概要）

「港湾調査」は統計法に基づく国土交通省所管の基幹統計調査です。ここでは、川崎港に入港した船舶及び川崎港と内外諸港との間で直接扱われた貨物について集計しています。調査期間は令和5年1月から令和5年12月（暦年）です。数値は速報値のため、後日変動する可能性があります。

令和5年のポイント

- 入港船舶の隻数、総トン数ともに2年連続減少
- 海上出入貨物の貨物トン数が2年連続減少
- コンテナ取扱個数が3年連続減少

入港船舶 16,237隻 (97.1%) / **8,039万総トン** (94.7%)

※()内の%は対前年比

外航船 2,156隻 (97.8%) / 5,868万総トン (91.4%)
うちフルコンテナ船 476隻 (109.7%) / 730万総トン (109.6%)

内航船 14,081隻 (97.0%) / 2,170万総トン (105.2%)

海上出入貨物 6,320万トン (92.2%) / うちコンテナ貨物 125万トン (82.8%)

外貨貨物 3,809万トン (83.1%) / うちコンテナ貨物 110万トン (82.0%)

輸出 522万トン (96.7%)
ジャマイカへの完成自動車が増加
バングラデシュへの砂利・砂が減少

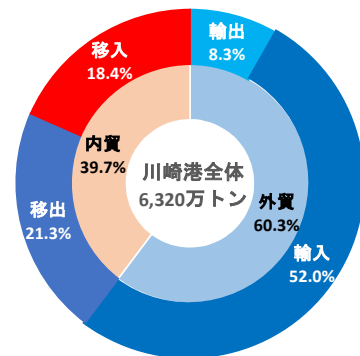
輸入 3,287万トン (81.3%)
アラブ首長国からの揮発油が増加
オーストラリア、ブラジルからの鉄鉱石、
オーストラリア、アラブ首長国からのLNGが減少

内貨貨物 2,511万トン (110.7%) / うちコンテナ貨物 16万トン (89.4%)

移出 1,347万トン (113.2%)
東京、千葉へのその他の石油、横須賀への石炭が増加

移入 1,164万トン (107.8%)
喜入からの原油が激増
須崎からの鉄鉱石が減少

貨物量構成比



コンテナ取扱個数 105,931TEU* (83.9%)

*コンテナの個数を数える単位。20フィートコンテナ1個 = 1TEU

外貨コンテナ 85,732TEU (79.6%)

輸出 43,460TEU (78.5%)
インドネシアへの自動車部品が増加、中国、中国(香港)への空コンテナが減少

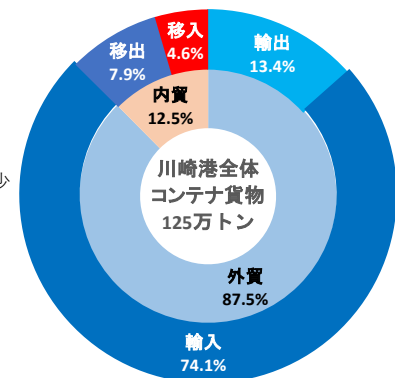
輸入 42,272TEU (80.7%)
ベトナムからの家具装備品が増加
中国からの家具装備品、その他日用品、ベトナムからの衣服・身廻品・はぎものが減少

内貨コンテナ 20,199TEU (109.5%)

移出 10,003TEU (103.3%)
東京への自動車部品が増加

移入 10,196TEU (116.3%)
横浜、大船渡からの空コンテナが増加、東京からの空コンテナが減少

貨物量構成比



※数値の詳細は別紙「速報集計結果」を御参照ください。

【問合せ先】

川崎市港湾局港湾振興部誘致振興課 齋藤
電話 044-200-0350